



『人・自然にふれあい、あいさつのこだまする学校』

子供を伸ばす ほめ方・しかり方

校長 田邑 八重子

夏休みが始まり12日が過ぎました。暑い日がまだまだ続きます。熱中症対策をしっかりしながらコロナ対策をしてください。コロナ禍ですが、東京オリンピックも始まり、連日選手の皆さんの諦めない心とその頑張りに元気をもらっています。

ところで、子供たちは、規則正しい生活を日々続けられているでしょうか。そして、自分のできるお手伝いをやってくれているでしょうか。20年以上前の話ですが、子供たちが元気に過ごせて、どんどんいろんなことができるようになる学級がありました。なぜ子供たちが元気でやる気に満ちているのかというと、その学級の先生が子供たちのほめ方・しかり方がとても上手だったからです。そのときに、「子供を伸ばすほめ方・しかり方」があることを知りました。

以下に「子供を伸ばすほめ方・しかり方（言葉の選び方）」について掲載してあります。子供たちをほめたり、しかったりする時の参考にさせていただければ幸いです。

Aというお母さんは、「〇〇ちゃんは、手伝ってくれていい子だね。お姉ちゃんよりもずっと立派だね。」と言いました。

Bというお母さんは、「お手伝いしてくれてありがとう。お母さん、うれしかったよ。」と言いました。どちらも子供たちはうれしそうに顔を赤らめ、また、お手伝いを始めました。



Aの子供は、「お手伝いをするとほめてもらえる」と学びます。そのため、次も自分をほめてもらいたいためにお手伝いをしようと考えます。ですから、ほめてもらわないと行動を起こさないようになりかねません。

Bの子供は、「こうやるとお母さんは喜ぶ」ということを学びます。人が喜ぶには、どういう行動をとったらよいかを感じ取れるようになります。

「お手伝いをすると、お母さんは喜ぶんだ」という認識は、「人に喜んでもらえることが自分にもできる。」という自信にもつながります。そして、また誰かに貢献しようとして行動します。それは、ほめてもらいたいからではなく、「誰かのお手伝いができてうれしい、人の喜びを自分の喜びと感じとり」自分の判断で行動するようになります。

Aのほめ方は、「いい子」という「人格」の評価になっています。大人の評価を気にする子供になってしまいます。

Bのほめ方は「行動」を評価しています。どういう行動が人の役に立つかということを考えられる子供になっていきます。

このように、「ほめ方」しだいで、**子供をさらに伸ばすことができるのです。**

また、「ほめる」ことだけでなく、同様に「しかる」ときも「**人格**」を否定するようなしかり方「あなたは、なんでいつもそんなことばかりするの」等は、子供のやる気をそいでしまうことになります。

「約束したのに、ゲームの時間を守れなかったこと、お母さん、悲しかったよ。」としかることは、「**行動**」をしかることになります。「こうやるとお母さんは悲しみ、人に迷惑をかける。」と考え、「何がよくなかったか、その原因は何か」反省し、そして「次からどのような行動が望ましいか」を考えて、よりよい行動をするようになっていきます。



永野小学校に記念樹を植えてありませんか？

本校に植えてある樹木が老木になり、樹木や大きな枝等が、いつ折れて落ちてきてもおかしくない状況があります。危険ですので、折れそうな枝や樹木を8月の愛校作業等で伐採しようと考えています。記念樹を植えた心あたりのある方がいらっしゃいましたら、永野小学校（58-0021）までお知らせください。



※ 8月11日（水）～8月13日（金）は、町内小・中学校は、学校開庁日（学校は閉まっている）になりますので、よろしくお願いいたします。